

平和運動センター通信 原水禁ヒロシマニュース

■発行：広島県平和運動センター
原水爆禁止広島県協議会（広島県原水禁）
■〒733-0013 広島市西区横川新町7-22 自治労会館 1階
■TEL:082-503-5855 FAX:082-294-4555
■E-mail:h-heiwa@chive.ocn.ne.jp
■広島県原水禁 ホームページ <http://www.hiroshimaken-gensuikin.org/>
ー子どもや孫たちに、戦争も核もない、美しい地球を！ー

No. 192

2016年
12月号
(12月1日)

発行責任者
藤本講治

――目次――

- 1頁：12月の活動予定（12/1現在）
2頁：平和運動センター2016年度第1回幹事会開く（11月25日）
3頁：「戦争法発動反対！南スーダンから自衛隊は撤退を！ヒロシマ集会」
地区労だより（三原地区労センター）
4頁：富山で「憲法理念の実現をめざす第53回大会」開催
5頁：F35B配備反対岩国市民集会に700人（11月20日）
「2016原水禁学校・第2講座」開催（11月19日）
8頁：「原爆ドーム世界遺産登録20周年記念行事」（11月23日）
部落解放県共闘会議「部落問題学習会」開催（11月26日）
9頁：部落解放共闘第33回全国交流会・地方共闘全国連絡会議第33回総会が
開かれる（大分市）
新聞に見る「ヒロシマ」（10/26～11/27）
11頁：ご案内〔12.8不戦の誓いヒロシマ集会〕
〔世界人権宣言68周年記念広島集会〕

【12月の活動予定】

- 1日(木)17:30 高校生平和大使・高校生1万人署名活動実行委員会サポーター会議＝広教組会議室
2日(金)17:30 被爆71周年原水爆禁止世界大会第3回広島県実行委員会＝自治労会館
18:00 日朝友好広島県民の会2016年度総会・講演会＝広島市留学生会館
18:30 「原水禁学校第Ⅲ講座」＝自治労会館
3日(土)11:00 もんじゅを廃炉へ全国集会＝福井県敦賀市
6日(火)18:30 ストップ！戦争法ヒロシマ実行委員会世話人会＝広島弁護士会
7日(水)17:30 金剛山歌劇団広島公演第3回実行委員会＝広島朝鮮小中高級学校
8日(木)18:00 不戦の誓いヒロシマ集会＝自治労会館
10日(土)13:00 被爆二世相談日＝平和運動センター事務所
11日(日)13:30 世界人権宣言68周年記念広島集会＝三原市リージョンプラザ
14日(水)13:00 護憲大会第6回実行委員会＝連合会館

- 14:00 平和フォーラム第4回運営委員会・原水禁第4回常任執行委員会
 ・被爆71周年原水爆禁止世界大会実行委員会＝連合会館
- 17日(土)13:00 第18回広島県部落解放研究者集会＝三原市人権文化センター
- 18日(日)10:00 I女性会議広島県本部第34回定期大会＝広島県健康福祉センター
- 21日(水)15:00 安保法制違憲訴訟公判＝広島地方裁判所

平和運動センター2016年度第1回幹事会開く(11月25日) ＝南スーダンPKOへの新任務付与に抗議！＝

11月25日、平和運動センター事務所において2016年度第1回常任幹事会を開催しました。

報告事項では、富山市で開催された第53回護憲大会の参加報告や11月11日に実施した「戦争法発動反対！南スーダンから自衛隊は撤退を！ヒロシマ集会」、原水禁学校の開催状況、狭山事件の再審を求める市民集会(10/28・日比谷野外音楽堂)などを報告しました。



11・15抗議行動(本通り青山前)

協議事項は、①戦争をさせない1000人委員会の今後の取り組みについて。②原水禁の取り組みでは12月2日に被爆71周年原水爆禁止世界大会県実行委員会を開催して大会のまとめを行う。「1.27 ネバダデー」に座り込みを行う。③各種集会では、「部落解放共闘第33回全国交流会」(大分市)、「12.8不戦の誓いヒロシマ集会」、「世界人権宣言68周年記念広島集会(12月11日)」等に参加する。などを確認しました。平和運動センターは、今後も戦争法の廃止をめざして、戦争をさせない1000人委員会運動を継続していきます。当面、1月19日の「19日街頭行動」を行い、2017年の活動をスタートさせます。

2016年11月16日

南スーダンPKOへの新任務付与の閣議決定に抗議する

フォーラム平和・人権・環境
 事務局長 勝島一博

政府は11月15日の閣議で、南スーダン国連平和維持活動(PKO)に参加する陸上自衛隊に、安全保障関連法に基づく「駆け付け警護」や「宿営地の防衛」などができる新任務を付与する実施計画の変更を決定しました。

現在、自衛隊(約350人)が参加している唯一のPKOは南スーダンで、キール大統領とマシャル前副大統領が激しく対立するとともに、軍事衝突が起こり、200万人が住む場所を追われています。4月26日にはマシャル氏が首都に戻り暫定政権が発足するも、7月8日以降内戦状態に逆戻りしてしまい、7月10日までの死者は民間人33人を含む272人にのぼり、PKO部隊の中国人兵士が死亡、陸上自衛隊の宿営地がある国連施設でも3000人の市民が避難しており、現地の治安情勢は予断を許さない状況と言えます。

こうした中、今月11日、国連の事務総長特別顧問は、南スーダンで「民族間の暴力が激化し、集団殺害になる危険性がある」と警告するとともに、反政府勢力のマシャル氏は「和平合意と統一政権は崩壊した」と発言しています。また、日本政府が公表した「基本的な考え方」では、現地の治安情勢については「極めて厳しい」、「首都ジュバも楽観視できない」と指摘するとともに、「政府として

も南スーダン全土に『退避勧告』を出している。最も厳しいレベル4の措置である」と報告しています。

にもかかわらず、日本政府は、福田朋美防衛相がたった7時間、柴山正彦首相補佐官がわずか1日の現地視察で、南スーダンの治安情勢について「比較的落ち着いている」との判断を下すとともに、スーダンで起きている銃撃戦は、自衛隊の撤退が必要な「紛争」ではなく「衝突」だと強弁しています。

このように、すでに南スーダンにおいてPKO五原則のひとつである「紛争当事者間の停戦合意」を満たしているとは到底言えず、また、現地で活動するNGOからも、「駆け付け警護」がかえってNGOを危険にさらすことになることが指摘されています。

さらに、「比較的」などというあいまいな言葉で自衛隊に危険な任務を押し付ける、政府の無責任な姿勢も断じて許すわけにはいきません。

戦後日本は、平和憲法のもと、武器によって殺したり、殺されたりする事態を免れてきましたが、今回の新任務付与によって、海外での武力行使への道をひらくことが危惧されます。

いよいよ、次期派遣から新任務が付与されることとなりますが、PKO五原則が守られない新任務の派遣は直ちに中止すべきであり、日本の果たすべき役割は、平和憲法に基づき軍事によらない人道支援や民生支援こそ世界に向けた日本の役割であると、私たちは強く訴えます。

私たちは、今回の閣議決定に抗議し、その撤回を求めるとともに、自衛隊の南スーダンからの即時撤退を求め、全国での闘いを強化するものです。

「戦争法発動反対！南スーダンから自衛隊は撤退を！ヒロシマ集会」 ＝原爆ドーム前・集会とデモ行進に300人＝

11月11日、安全保障関連法（戦争法）に基づく「駆け付け警護」「宿営地の共同防衛」など、自衛隊の新任務を南スーダンPKO派遣部隊に付与するための閣議決定が11月15日行われようとしている中、南スーダンPKOへの自衛隊派遣に反対する集会を「ストップ！戦争法ヒロシマ実行委員会」主催で反対集会を開催し、300人が参加しました。



集会のあいさつで、戦争をさせないヒロシマ1000人委員会の呼びかけ人である秋葉忠利さんが「南スーダンへ戦争をしに行く自衛隊を止めなければならない」と訴えました。参加者は集会後、「戦争法発動反対、自衛隊の南スーダンへの派遣反対、南スーダンからの即時撤退を！」と声を上げ、繁華街をデモ行進しました。なお、この集会の中で取り組んだ会場カンパは、97,978円のご協力をいただきました。

地区労だより【三原地区労センター】

＝市民との連帯の輪を拡げて行動を展開しています＝

11月18日に三原地区労働センター2016年度定期総会を行い、今年度と次年度の活動について役員・参加者同士で確認しました。総会終了後は、「第19代高校生平和大使・国連欧州本部訪問報告」と題して、広島県立広島高校1年の岡田実優さんにお越しいただき学習会を開催しました。スイス・ジュネーブの国連欧州本部の訪問や全国で集め

た核廃絶の署名の提出など貴重な体験談を聞きました。学校教育現場での平和学習が乏しくなりつつある近年でも、自分たちよりもはるかに若い世代が、こうした核兵器廃絶や平和への情熱的な想いを持っていることが分かり、大変励みになりました。

三原地区労働センターは、昨年12月19日より近隣の市民団体と連携して、「毎月19日戦争をさせない三原市民行動」と題して街頭行動を行っています。内容は、市民による街頭リレートークやチラシ配り・署名活動などです。こうした継続した活動は、地元新聞やテレビにも取り上げられたりと徐々に注目を集めています。

改憲勢力が戦後初めて衆参で3分の2議席を獲得したことにより、今後、自公政権は「自民党の改憲草案」を基本としながら、憲法改悪へ踏み出すことは確実です。戦争法の具体化、沖縄名護市辺野古への基地建設、原発再稼働推進政策等を加速させ、アベノミクス政策も強引に進めてきます。これらの政策は、世論・市民の支持を得ておらず、まさに立憲主義・憲法を破壊するものです。私達が直面しているのは戦後最大の平和と民主主義の危機です。引き続き、憲法改悪と戦争法の発動に反対し、暮らし、人権、平和を守るため、安倍政権の暴走に対抗する連帯の輪を拡大する必要があります。

今後も情勢はより厳しくなっていくと思いますが、三原地区労働センターは「微力であるが無力ではない」という言葉にもあるように、どんな小さなことでもできることからコツコツと活動を進めていきたいです。 三原地区労働センター事務局長 土屋征史



富山で「憲法理念の実現をめざす第53回大会」開催

＝譲れない命の尊厳！人権・戦争・沖縄＝広島から16人参加



「譲れない命の尊厳！人権・戦争・沖縄—憲法理念の実現をめざす第53回大会（護憲大会）」は、11月12日から14日の日程で、富山市のオーバードホールをメイン会場に全国からの1,800人が参加して開催されました。（広島県参加者＝16人）

11月12日の開会総会、前段のオープニングでは、富山の自主的グループの和太鼓「でんでこ」による演奏が行われました。

開会総会は、藤本泰成実行委員長の主催者あいさつや連合、民進党・社民党などから連帯あいさつ、実行委員会勝島一博事務局長の基調提案。そして、メイン企画「漂流する日本政治 安倍政権のこれまでとこれから戦争法阻止、立憲主義確立、憲法擁護のため私たちは今後どう闘うのか」は、「アベノミクスと格差社会」（横浜市立大の金子文

雄教名誉授)、「安倍政権と憲法」(日本体育大学の清水雅彦教授)、「沖縄の現状」(名城大学の大城渡上級准教授)の3本の柱で講演を受けました。

第2日目は、午前は「非核・平和・安全保障」、「地球環境—脱原発に向けて」、「歴史認識と戦後補償」、「教育と子どもの権利」、「人権確立」、「地方の自立・市民政治」、「憲法」の7分科会、とフィールドワーク、午後には「男女共同参画—女性と人権」、「辺野古新基地建設・沖縄基地問題」、「イタイイタイ病とフクシマ」の3つの「ひろば」、特別分科会「運動交流」が行われました。

最終日の閉会総会は、「高江」について沖縄平和運動センター大城悟事務局長、「オスプレイ」について第9次横田基地公害訴訟原告団の福本道夫さん、「もんじゅ」について原子力発電に反対する福井県会議の中嶋哲演さん、「再稼働」について新潟平和運動センターの有田純也さんの4人の特別提起がありました。「大会のまとめ」を勝島事務局長が提案し、次回第54回大会まで1年間、全力で安倍政治を許さず、憲法理念の実現をめざそうと訴えました。その後、「憲法理念を実現する営みは、多くの人びとによる、さらなる努力を必要とする。現実には止まることなく、怯まず、諦めず、そして弛まず、信念をもって憲法理念の実現に向け、全力でとりくんでいかなくてはなりません」との大会アピールを採択し、護憲大会を終了しました。

F35B配備反対岩国市民集会に700人(11月20日)

＝F35配備容認 白紙撤回を！＝

11月20日、岩国市役所前公園において岩国市の米海兵隊岩国基地への米軍最新鋭ステルス戦闘機F35Bの配備反対の集会が開催され、山口県などから約700人が参加して集会とデモ行進を行い、F35B配備容認白紙撤回を訴えました。平和運動センターは、中国ブロック平和フォーラム・STOP!オスプレイの会からの要請でJR西労やI女性会議などと参加しました。



集会では、各団体からF35Bが10月に米本国で重大事故を起こしている点を挙げ、国が示す安全に関する説明の根拠が崩れたと指摘しました。集会の後、参加者は「F35B配備容認 白紙撤回」を訴えて岩国駅まで行進しました。

「2016原水禁学校・第2講座」開催(11月19日)

＝「似島フィールドワーク —似島を学ぶ、似島から考える—」＝

(日本のサッカー発祥の地—捕虜収容所から広がったサッカー)

11月19日、40人が参加して「原水禁学校・第2講座」を似島で開催しました。講座の内容をインターネット「ヒロシマの心を世界に」ブログ(広島県原水禁中谷悦子常任理事)から紹介します。

【第一検疫所】

小雨が心配される中、第二回原水禁学校で似島を訪れた。似島を学び、軍都広島の際された歴史や被爆の惨状を追体験するフィールドワークに県内から老若混じえて40名

が参加した。今日の講師は、地元の似島で郷土の歴史を探究しボランティアガイドをされている宮崎佳都夫(みやざきかずお)さん。似島のことについて尋ねるならば彼をおいて他にないと言われる人だ。秋葉学校長の挨拶の後、早速フィールドワークが始まった。

まずは1985年6月1日に開所された陸軍第一検疫所の遺構を訪ねた。小雨も気にならず講師の後に続いた。残念なことに似島の検疫所の遺構は次々と壊され、当時を物語る物は少なくなっているということだ。まずは弾薬庫を見た。宮崎さんによると、「弾薬庫は第一検疫所棧橋からずっと海岸に沿って続いていた。しかし国有地なので財務局が売りに出し、遺構を撤去したため当時を偲ぶものは写真しかない」と残念そうに語られた。聞く私たちも歴史の生き証人として残して欲しかったと思った。当時の物としては水路が残っていた。明治期の石組みは水平に済んであるのが特徴だ。なるほど長い水路は全て水平に石組みされていた。



この後、似島学園の敷地を脱け海岸に出た。そこから見える景色は対岸の宇品、そして目の前に第一検疫所の二つの棧橋。一つにはクレーンの台座らしきものが当時のままで残っていた。そして目をこらせば煉瓦で美しく積み上げられた焼却炉の煙突。ここで参加者から質問が飛ぶ。「ドイツ兵の死体を焼いたと聞いたのですが？」それに対して宮崎さんからは「ここは観戦物や汚染物を焼いた焼却炉です。私の父など古老から死体焼却炉は別にあったと聞きました」という返事が返ってきた。これに限らず戦前の状況について思い込みも多くあるのではと感じた。ここでもキーワードは水平の石積み。明治期の職人の気持ちを推し量ってみた。

海岸線にそって学園の周囲をまわった。すると校庭に大きな銅像があった。後藤新平の銅像だ。東京市の市長、台湾総督府の 辣腕の行政マンとして有名だが、この陸軍検疫所の構想を練り、僅か2ヶ月で開所した人物だ。元々は医学者だ。宮崎さんによると検疫という未知の考え方を現実化したのが後藤新平。汚染から消毒後までの導線までがしっかりと計算されていたということや大型の高圧蒸気式消毒釜を設置したことからもその見識がうかがえた。ただ、後藤新平については台湾時代に作ったアヘン漸減法については評価が分かれている。

【近辺の施設－監視所・弾薬庫跡】

第一検疫所跡に隣接しているのが弾薬庫の跡と監視所だ。

この辺りで雨はほとんど止んで歩きやすくなった。アリの行列のように細い階段を登り弾薬庫の土塁を歩いた。すると小高くなって木に覆われた一画にタイムスリップしたような監視所が表れた。ここから見下ろすと広島湾を行き交う船の様子が一望できたということだ。しかし、見るからに狭い。Aさんが入ってみた。すると以外に広かった。弾薬庫は近年まで残っていたが財務局の売り出しによって壊されてしまった。最近、戦争の遺構が次々と壊されていく。戦争の愚かさを語ってくれた方たちの訃報も多く聞く。「今が戦前だ」と言われる今日この頃、こうした遺構が姿を消していくことが残念でならない。遺構は物言わぬ証人だ。



【第二検疫所 ドイツ人捕虜との交流】

澄み渡った海を眺めながら第二検疫所跡に向かった。今は広島平和養老館という老人福祉施設となっている。ここにも3つの棧橋があり、被爆者は主に第三棧橋から検疫所に運び込まれた。船から積み降ろされて検疫所に入る迄に多くの方が息絶えてしまったという。またたく間に検疫所は埋め尽くされ収容スペースが無くなったそうだ。どの位の方が運び込まれたのか色々な説があるが1万人、いやそれ以上と言われている。ここには救護にあたった暁部隊 6165 部隊の有志が建立した慰霊碑がある。また、平和養老館の前には日本一長いと言われた宇品駅のプラットホームが一部移設されている。これは似島と宇品が常に連動して戦争に関与してきたことを忘れないために移設したという。軍港宇品と検疫所似島。日本の戦争の歴史そのものだ。ここでは馬匹焼却場の一部を移設した遺構を見た。市営アパートの建て替えに伴い、地元の方がここを発掘してほしいという要望に応じて掘り起こしてみると確かにバケツ 40~50 杯くらいの遺骨が現れた。焼却温度が高いのでばらばらになってしまった。似島には未だに多くの原爆の犠牲者が眠っているのではないかと思った。検疫所には大量の水が欠かせない。この辺りは「清水の窪」と呼ばれていた所。いい田や畑があったのだろうか。初めて第二検疫所の井戸をじっくり見させてもらった。煉瓦で丸くしっかりと組まれていた。2003 年から献水の水となっている名水だ。この水で多くの被爆者の喉が潤されたのだろうか。被爆者の「水！水！」といううめき声が聞こえてきそうだった。



この後、芝生広場に出て第一次大戦のドイツ人捕虜の話となった。ドイツ人捕虜との交流でバームクーヘンの焼き方が伝わり、職員と捕虜の交流で日本で初めてサッカーの試合が行われたそうだ。バームクーヘンはカール・ユーハイムが当時の広島県物産陳列館《原爆ドーム》で行われた博覧会に出品し人気を博したという歴史を持つ。広島県はサッカー強豪県として有名だった。社会人も高校も全国に名を轟かせた。広場に目をやると、雨上がりの爽やかな天気の中で子どもたちが無心にサッカーに興じていた。

昼食後、午後のフィールドワークに出発する時、爽やかな音楽が聞こえてきた。なんと少年自然の家のスタッフの皆さんが音楽とパフォーマンスで私たちを見送ってくださった。何となく有り難く、何となく心が和む。

【慰霊碑と千人塚】

慰霊碑前に向かう途中大きな防空壕が目についた。コンクリートで厚く覆われた防空壕には悲しい歴史がある。各地で亡くなった被爆者の遺体が似の島に運ばれ、茶毘に付されることなく防空壕に投げ込まれたり穴に埋められたという話がある。人間の尊厳とは程遠い扱いだ。戦争は人権・尊厳を踏みにじて遂行される。今では許されない行為だが戦争の名の下に許された。慰霊碑の前で千人塚やその周辺の遺骨の発掘について詳しくお話を聞いた。ここに遺体が眠っているという人の証言で発掘にとりかかったが民有地の壁にはばまれてしまったことや、中学のグラウンドを造成する時に出てきた遺骨の発掘状況の写真をを見せていただいた。ネームプレートが出てきて遺族が名乗りをあげられた事例はあるが殆どが身許不明で改めて茶毘に付され平和公園の供養塔に納められたと聞くと犠牲者の無念が伝わってくるようだった。



宮崎さんは「原爆の投下も戦争時に行われた。全てを捉えていくことが大切」と話してくれた。改めて肝に銘じたい。「ノーモアヒバクシャ！ノーモアウオー」。
宮崎さん、有難うございました。（中谷悦子）

「原爆ドーム世界遺産登録 20 周年記念行事」（11 月 23 日）

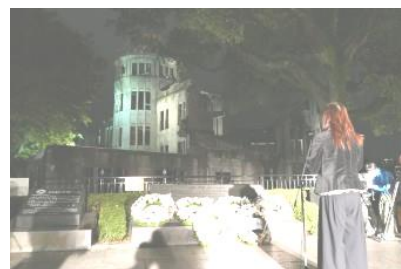
＝核兵器廃絶と世界の恒久平和への誓いを新たに＝



今年の 12 月 7 日で原爆ドームがユネスコの世界遺産に登録されて 20 年を迎えます。連合広島や県原水禁、平和運動センターなど核兵器廃絶広島平和連絡会議は、それを記念して 11 月 23 日、「原爆ドーム世界遺産登録 20 周年記念行事」を開催しました。

第 1 部の記念フォーラムは、広島国際会議場において約 500 人が参加し、元広島平和記念資料館長の原田 浩さんの「ヒロシマの願いを世界へ」と題した記念講演や第 19 代高校生平和大使など若者からのメッセージ、そして平和記念公園にある原爆の子の像のモデルである佐々木禎子さんの甥のシンガーソングライター佐々木祐滋さんのトーク・ライブがありました。

第 2 部の平和アピール行動では、原爆ドーム慰霊碑前において、来賓者や県被団協（坪井理事長）、県原水禁（金子代表委員）、KAKKIN 広島（永山議長）、連合広島（久光会長）による献花や平和運動センター（佐古議長）など代表者による献水、集会アピールの採択、「翼をください」の合唱を行い、最後に参加者全員で黙禱・献花を行って記念行事を終了しました。20 年の節目にあたり、核兵器廃絶と世界の恒久平和への誓いを新たにしました。



部落解放県共闘会議「部落問題学習会」開催(11 月 26 日)

＝呉で現地学習・差別の実態、解放運動の歴史に学ぶ＝



部落解放広島県共闘会議は、今年の「部落問題学習会・フィールドワーク」を 11 月 26 日に呉市山の手会館で開催しました。県共闘会議の加盟組織から 23 人が参加しました。県共闘会議を代表して岡田事務局次長（部落解放同盟県連副委員長）があいさつを行った後、地元呉支部の谷口吉俊支部長から「呉支部の環境改善の歩み」と題して講演を聴いて、部落差別の実態と闘いの歩みについて学習を行いました。

谷口さんは、自らの生い立ちや解放運動に目覚めた体験を話しながら「屠殺場、火葬

場、墓地など人が嫌がる施設を被差別部落に集中させた行政の差別政策と解放運動によって、環境改善を進めてきた闘いの足跡。そして、解放運動に参加して差別を見抜くことができるようになったことなど解放運動のすばらしさを学んできた。運動はしなければならぬ。このことを若い者に伝えていきたい」と熱く語られました。

その後、呉支部の西尾かずえさんの案内で旧海軍墓地までフィールドワークの現地学習を行いました。私たちは、今も差別は現存していること、部落差別の存在意義をしっかりと捉えて共闘運動に取り組んでいかなければなりません。

部落解放共闘第33回全国交流会 地方共闘全国連絡会議第33回総会が開かれる(大分市) ＝全国各地で部落解放共闘運動を前進させよう＝

部落解放共闘第33回全国交流会と部落解放地方共闘全国連絡会議第33回総会が11月29～30日、大分市「大分オワシスタワーホテル」で開催され、府県共闘会議から約100人が参加しました。広島県共闘会議から連合広島、自治労、私鉄県協、部落解放同盟、平和運動センターの6人が参加しました。

主催者を代表して全国共闘会議の組坂繁之議長（部落解放同盟委員長）は、あいさつで「インターネットを利用した差別事件が後を絶たない。部落差別の解消をする法律を今国会で成立させないといけない」と訴えました。来賓挨拶は連合本部南部美智代副事務局長らから行われました。

総会後の全国交流会では、部落解放同盟熊本県連合会の松永信子女性部長から「熊本地震～被災地からの報告～」と題して、地震発生から現在までの被災地の現状について報告され、全国の仲間から物心両面にわたる温かい支援をいただいた。とお礼の言葉がありました。また、活動交流では、5つの県共闘（愛知県・鳥取県・兵庫県・高知県・大分県）から活動報告を受け、取り組みの共有をしてきました。

最後に、部落解放同盟赤井隆史財務委員長が「部落差別解消推進法案の成立を求めて」と題した講演を聴講して二日間の日程を終了しました。



新聞に見る「ヒロシマ」(10/26～11/27)		
見出しから	日付	新聞
核禁止 国連決議に不賛同	10.26	中国
中国、被爆者明記に反対 日本の決議案	10.27	中国
「核禁止」への賛成要請 NGO連絡会など	10.27	中国
代筆続ける被爆者存在する限り 平和祈念館	10.28	朝日
国連核禁止決議「賛同を」相次ぐ	10.28	中国
核禁止条約 交渉開始を決議 日本や米口は反対	10.29	朝日
「被爆国の役割放棄」 被団協、政府に抗議文	10.29	朝日
核実験の地で「ゲン」紹介 カザフスタンとの交流団体	10.30	中国

平和願い61年ぶり再会 禎子さんと入院生活で交流	10.31	中国
在米被爆者訴訟 遺族の意思能力否定	11.3	中国
原爆犠牲者に思いはせ 駐日韓国大使 平和公園で黙禱	11.9	朝日
政府 条約交渉主導を 平和首長会議要請へ	11.9	中国
「指導者は被爆地訪問を」カザフ大統領が国会演説	11.9	中国
核兵器禁止条約交渉へ 日本の建設的貢献望む	11.9	中国
日印原子力協定 交渉中止を要求 広島市、首相らに	11.9	中国
トランプ氏 米大統領に 被爆者「今後が重要だ」	11.10	朝日
広島市 被爆地訪問求める 被爆者「核廃絶譲れぬ」	11.10	中国
若い視点で核廃絶訴えよう 高校生平和大使募る	11.11	中国
「核なき世界遠のく」日印協定署名 広島の被爆者批判	11.12	中国
軍事利用 強い懸念 東京で市民団体抗議	11.12	中国
被爆米兵調査 森さん 作品めぐり監督対談	11.12	朝日
長瀧重信さん死去 チェルノブイリ健康被害調査	11.15	朝日
「我々は同じヒバクシャ」カザフスタン大統領 広島訪問	11.16	朝日
知事、トランプ氏勝利受け 「早く被爆地訪問を」	11.16	朝日
駆け付け警護 市民団体 街頭で抗議	11.16	中国
トランプさん、被爆地に来て 広島と長崎 市長が文書	11.17	朝日
映画「折鶴2015」文科省選定に	11.18	朝日
広島県議会 超党派で「平和」探る	11.19	中国
核の非合法化 どう道筋 専門家が発表会	11.20	中国
被爆支廠 活用策探る 内部見学会に市民120人	11.21	中国
「黒い雨」訴訟 援護区域を巡り 双方主張交わす	11.22	朝日
広島市総合福祉健康センター内 放影研 施設入居案浮上	11.23	中国
オバマ政権 核先制不使用を断念	11.25	中国
核禁止条約決議反対巡り 広島市長ら 外相に「遺憾」	11.25	朝日
原爆資料館本館 来月にも耐震工事着手	11.25	中国
原発避難者 被爆者と交流	11.26	中国
広島市、市医師会に放影研移転の協力要請	11.26	中国
核なき世界 高い壁実感 「核先制不使用 米断念」被爆者反応	11.26	中国
被爆者人物画 娘の元に	11.27	中国

【 ご 案 内 】

■ 12. 8不戦の誓いヒロシマ集会

◇日 時 12月8日(木) 18時～20時

◇会 場 自治労会館3階 大会議室

◇講 演 「沖縄から見える戦争・基地・人権」

講師：高里鈴代さん(オール沖縄会議共同代表)

■ 世界人権宣言68周年記念広島集会

◇日 時 12月11日(日) 13時30分

◇会 場 三原市リージョンプラザ

◇講 演 「いま改めて人権の大切さを考える—ヘイトスピーチ、相模原事件から見えるもの」

講師：香山リカさん(精神科医・立教大学現代心理学部教授)